

140年あまりの歴史を誇るドイツの名門オーケストラ

# ドレスデン フィルハーモニー 管弦楽団

【指揮】ラファエル・フリュートベック・デ・ブルゴス



ワーグナー：

「ニュルンベルクのマイスター・ジンガー」より

第3幕への前奏曲

徒弟達の踊り

第1幕への前奏曲

ワーグナー：

「トリスタンとイゾルデ」より

前奏曲

イゾルデの愛の死

ベートーヴェン：

交響曲 第7番



Rafael Frühbeck de Burgos  
**Dresdner Philharmonie**

**2011 6.29(水) 開演 18:30 岩手県民会館 大ホール**

**入場料 SS: 9,000円 S: 8,000円 A: 6,000円 B: 5,000円**

※当日各席500円増 ※高校生以下は全席半額料金。県民会館コンサート・サロン会員は各席20%割引(いずれも県民会館のみ取扱い)

■主催/財)岩手県文化振興事業団 / 岩手日報社 / IBC岩手放送

■後援/岩手県・岩手県教育委員会・盛岡市・盛岡市教育委員会・岩手県芸術文化協会

【お問い合わせ】

県民会館事業課 TEL.019-624-1173

<http://www.echna.ne.jp/~iwkenmin/>



# ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団

ザクセン州の州都のコンサート・オーケストラとして、ドレスデンで年間80回を越えるコンサートを行っている、この町の文化生活にとって欠くことのできない存在。450年に渡るドレスデンの市民音楽の伝統から生まれ、1969年から本拠をアルトマルクト広場の文化宮殿に置く同オーケストラのコンサートは、多数の市民や観光客にとって、大きな魅力となっている。またこれまで、ヨーロッパ各地を初め、中国、日本、イスラエル、南アメリカ、アメリカ合衆国に演奏旅行を行っている。

成立は、ドレスデンでコンサート・ホールの柿落としが行われた1870年11月29日に遡る。産業会館ホールの設立が、市民に大オーケストラを組織する機会を与え、宫廷から独立したドレスデンの公共コンサート活動が、新たな段階へ向けて第一歩を踏み出したのである。当時の〈産業会館オーケストラ〉は、1885年からフィルハーモニー・コンサートを催しており、そのことから1915年に現在の名称を得ることとなった。

過去には、ブラームス、チャイコフ斯基、ドヴォルザーク、シュトラウスなどが自作を同オーケストラで演奏している。首席指揮者としては、1934年以降、パウル・



[指揮] ラファエル・フリューベック・デ・ブルゴス  
Rafael Frübeck de Burgos, Principal Conductor and Artistic Director

1933年、スペインのブルゴス生まれ。ビルバオとマドリッドの音楽院で、ヴァイオリン、ピアノ、及び作曲を学んだ後、ミュンヘン音楽大学で研鑽を積んだ（指揮法をK.アイヒホルンとG.E.レッシングに、作曲をヒンデミット研究者のH.ゲンツマーに師事）。卒業後は、ビルバオ交響楽団の首席指揮者としてキャリアを開始。1962年から78年まで、マドリッドのスペイン国立管弦楽団の首席指揮者を務めた。その後、デュッセルドルフ市の音楽総監督、デュッセルドルフ交響楽団、モントリオール交響楽団の各首席指揮者を歴任。また、読売日本交響楽団やワシントン・ナショナル交響楽団とも首席客演指揮者として共演した。

彼はこれまでに、ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、日本、及びイスラエルで、100以上ものオーケストラと共に演奏している。また、ヨーロッパ、アメリカ、南アメリカで、オペラの指揮も行っている。1991~96年には、ウィーン交響楽団の首席指揮者、1992~97年には、ベルリン・ドイツ・オペラの音楽総監督、1994~2000年には、ベルリン放送交響楽団の首席指揮者を歴任。さらに2001年には、トリノのRAI国立交響楽団の終身指揮者に任命された。

彼はまた、その卓越した芸術的功績により、数々の賞や称号を授与されている。スペインのナビア大学とブルゴス大学からは名誉博士号が授与され、1996年には、オーストリア共和国から「鎮バッジ」が、国際グスタフ・マーラー協会から「金メダル」が贈られた。1997年には、スペインで最も権威ある音楽

ファン・ケンペンやカール・シューリヒトが、1945年以降はハインツ・ボンガルツ、ホルスト・フェルスター、クルト・マズア、ギュンター・ヘルヴィッヒ、ヘルベルト・ケーベル、イェルク＝ペーター・ヴァイグレ、ミシェル・プラッソンが活躍し、数々の録音を残した。

2001年から2003年の間、マレク・ヤノフスキが、オーケストラの傑出した演奏能力を開花させ、2003/4シーズンにはラファエル・フリューベック・デ・ブルゴスが首席客演指揮者として度々共演、翌年には首席指揮者に就任した。豊富な経験とカリスマ性を持つ彼は、オーケストラと極めて良好な関係を保つつ、ドレスデンでのコンサート、海外ツアーや、レコーディングなどで、次々と成功を収めていった。2004年に3週間に及ぶアメリカ・ツアーを行った際には、ニューヨークの批評家たちから「世界最高のオーケストラの一つ」と大絶賛された。これは外国のオーケストラがアメリカで受けた批評としては、異例とも言える高い評価であった。2008年の日本／韓国ツアーにおいても成功をおさめ、フリューベック・デ・ブルゴスとドレスデン・フィルの相性の良さを改めて実証する結果となった。



賞のハシント・ゲレーロ賞を受賞。翌1998年には、スペイン国立管弦楽団の名誉指揮者に任命された。

2003年、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者に就任。その翌年には首席指揮者及び芸術監督に任命された。これまでリリースされた100を越えるレコーディングは、彼の世界的名声を如実に物語っており、中でも歴史に残る傑作と言わわれているものとしては、メンデルスゾーンのオラトリオ「聖パウロ」と「エリア」、モーツアルトの「レクイエム」、オルフの「カルミナ・ブランナ」、ビゼーの「カルメン」、そして同じスペイン出身の作曲家ファリヤの全集などが挙げられる。ドレスデン・フィルとの最初のレコーディングとなったR.シュトラウスの「ドン・キホーテ」「ドン・ファン」「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」は、2004年にリリースされた。

ドレスデン・フィルとは、このほかR.シュトラウス「アルプス交響曲」「ばらの騎士」組曲、2007年のニュー・イヤー・コンサート及びアンコール曲集（ブラームス、シュトラウス、ファリヤ、ドヴォルザーク、ビゼー他）、ブルックナーの交響曲第3番、ワーグナーの楽劇から管弦楽曲の傑作集（「ニュルンベルクのマイスター」、「トリスタンとイゾルデ」、「神々の黄昏」からの抜粋）を録音。最新作は、2008年2月にリリースされた、ブラームスの交響曲第1番と第3番である。

## Dresdner Philharmonie